

令和4年度 自己評価・学校関係者評価に係る評価結果等報告書

高松市立塩江小学校 校長 須田 礼恵

	評価項目	評価 4段階	自己評価結果と改善方策等	学校関係者評価結果および意見等
1	確かな学力の育成に関すること (学力向上、キャリア教育、英語教育、情報教育等)	4	全教職員に塩江スタイルの学習が定着しつつあり、保護者も評価してくれている。ICTの有効活用、食育の充実について本校の実態をもとに研究を進めていく。	・知、徳、体のバランスのいい取り組みがなされている。故郷を愛する心について質の高い実践が行えている。
2	豊かな心を育てる教育の推進に関すること (道徳教育、小中一貫・連携教育、シビックプライド、読書活動、体験活動等)	4	地域人材を活用した充実したふるさと学習が実施できている。来年度以降の複式化に伴い、年間計画の見直しとスリム化を計画的に行っていく必要がある。	・明らかに体力が低下している。強制的に運動させていたこともある。運動すると学力が向上する。学校で30分トレーニングしてから勉強をスタートする国もある。音楽が鳴っている間、外遊び等をしたり、毎朝3分でもトレーニングをしたりする取り組みをしてほしい。
3	生徒指導の充実に関すること (いじめ、不登校対策、学校生活のきまり(校則など)等)	4	SCやSSW、子ども女性相談課等、関連機関と情報共有を迅速に行い、チームで対応できている。不登校傾向の児童も少なく、オンライン等、学習に参加しやすい体制も確立できている。	・体力をつけるには食べることが大切。食べることを大切にしてほしい。
4	運動に親しむ習慣づくりと体力の向上に関すること (体力・運動能力の育成)	3	スポーツ体操は継続して実施できたが、取り組みの割に成果が見えにくい。マラソン、なわとびの実施方法についてさらに工夫が必要。	・体力の問題は、二極化が一番問題。夢や目標があれば、子どもはそれに向かって努力ができる。夢や目標を持たせる教育をしてほしい。「気付く」ことが必要。そのために、塩江の中で「井の中の蛙」にならず、広い世界での経験値が高まるようにしてやりたい。
5	食育の推進と心身の健康づくりに関すること	3	生活習慣が乱れている児童が多く課題が多い。家庭への啓発の仕方や食育指導をする上での協力体制づくりを校内で進めていく必要がある。	・少子化の問題は、深刻。塩江の良さを大切にし、危機感を持ちながらも「楽しくやってみよう」を大切に就学前教育を行っている。
6	学校人権教育の推進に関すること	3	11月の人権月間に、学年ごとの目標を設定した取り組みを重点化して行うことで人権意識が高まった。全校生で人権に関するDVDを視聴し効果的な意見交換ができた。	・いろいろな人の意見を取り入れることが大切。学校に直接携わっている人の意見がききたい。
7	特別支援教育の推進に関すること	3	特別支援における小中連携を強くする必要がある。現教の特別支援の会に中学校の担当教諭にも参加いただき、小学校の児童の実態や支援の様子を共有していきたい。	・塩江は地域ボランティアの方々など、多くの方に協力いただき恵まれた環境でいろいろな活動の幅が広がっている。長く続けられるよう、若い方の参画を進めたい。
8	教員の資質向上と教育指導体制の充実に関すること (職員のコンプライアンス・現職教育等)	3	毎月コンプライアンス研修を実施した。短時間で効率よく話し合い、教員の危機管理意識や安全への意識向上を図ることができた。	・学校、家庭、地域が一緒になって子どもを育てていかねばと思う。地域の人が関わることで、先生方の助けになる方法を模索したい。
9	安心・安全で質の高い教育環境の整備に関すること	4	コロナ関連の情報を迅速に収集し、適切な対応ができた。スクールバスの積雪対応もバス会社と早めの情報交換を心がけ、保護者の混乱なく対応できた。	・学校での取り組みにも関わらず、体力等に課題があるのは、家庭にも責任があるかもしれない。
10	家庭や地域との連携・協働に関すること (高松型コミュニティ・スクール等)	3	学校課題について、委員それぞれの立場からご意見やご助言をいただけるように会のもち方を工夫したい。	・様々な取り組みを行うことは大切だと思う。しかしながら、取り組みが多いほど先生方の負担が非常に大きくなる。まずは、基礎学力の定着、学力向上を重点ポイントとして取り組むべきではないかと思う。
11	働き方改革・業務改善に関すること (時間外勤務の削減等)	3	行事の精選や効率的・合理的な業務遂行力を身に付けることが課題である。やりがいを実感できるような分掌配置や支援の仕方も工夫が必要である。	